

「親子ふれあいスポーツデー」 綿谷 寛（光華小地区・2期目）

新型コロナウイルスの感染拡大がなかなか収まらない中、感染対策をしっかりと整えた上で、去る6月4日（日）の午前9時30分から正午まで、市立武蔵野小学校の校庭及び体育館において、「親子ふれあいスポーツデー」を開催しました。

当日は快晴に恵まれ、校庭ではグラウンド・ゴルフ、ストラックアウト、輪投げの3種目を行う一方、体育館では、新体力テスト（握力、上体起こし、長座体前屈、立ち幅とび、20mシヤトルラン、反復横とび）を行いました。

参加者は子ども62人、大人38人の合計100人でした。スポーツ推進委員は体力測定を担当しましたが、事業協力依頼団体として、グラウンド・ゴルフ協会とレクリエーション研究会が参加しました。

当初参加者はまばらでしたが、30分程過ぎると親子連れの姿が多く見られるようになり、体育館の中はかなり賑わいを見



せました。

スポーツ推進委員は2人くらいが組になって種目を担当しましたが、親子で楽しく測定を受けたり、記録を少しでも更新しようと真剣に取り組む親子の姿が多く見受けられました。

中でも「20mシヤトルラン」では、1回でも多く走ろうと、顔を赤くしながら走り続ける姿が見受けられました。また、今回は空きスペースに東京オリパラで注目を集めた「ボッチャ」の体験コーナーを設けましたが、思った以上に人気があり、特に子どものハッスル姿が見受けられました。

「ボッチャ昭島カップ」 田中 道雄（東小地区・2期目）

東京都市町村ボッチャ大会の前哨戦でもある「ボッチャ昭島カップ」が、6月25日総合スポーツセンターの第1体育館で行われました。

天候に左右されない室内競技で、使用する球は柔らかく、片手でつかめる野球のボール程の大きさで、転がすことができれば、年齢・性別・障害の有無に関わらず、誰でも参加可能なスポーツです。

ボッチャは、昨年行われた東京2020のパラリンピックで正式種目になったばかりで、この栄えある大会の「混合個人BC2」では、杉村英孝選手が金メダルを取り、日本中に感動を与えてくれました。これが一つの大きなきっかけとなり、広く知られるようになりました。

今年はコロナ禍での開催ということもあり、若い親子連れ、自治会仲間、学校の友達、地域のスポーツの仲間、障害有無者の混成チームなど、合計12チームが2ブロックに分かれ、リ

グ戦形式で行われました。

かなり練習を重ねてきたと思われるチームがあれば、今日が全く初めてというチームもあり、中にはマイボールを持参するチームもあるなど、昭島市民のボッチャに対する関心の深さを、改めて感じる事ができました。

各チームとも、一球毎に作戦を練りながら投球し、スーパースhotsが時折放たれました。その中でも終盤の準決勝や決勝では、球の上に球が乗るなど、白熱した試合に歓声が湧きました。参加者全員が和気あいあいと楽しむ中、ボッチャ昭島カップは無事終了することができました。

